

令和7年度 全国学力・学習状況調査 ～我孫子市の子どもたちの結果より～

教科に関する調査結果より

小学校

国語、算数、理科いずれも全国・県平均正答率と「ほぼ同程度」 ※いずれも上回っている

中学校

数学は「上回っている」国語、理科は全国・県平均正答率と「ほぼ同程度」

*「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

学力

- 小学校国語では、どの内容も比較的良好であり、特に「情報の扱い方に関する事項」の正答率が高かった。一方、昨年に引き続き漢字の書き取りの誤答が目立った。文や文章の中で漢字が正しく使えるよう、熟語を意識した漢字学習に取り組む必要がある。
- 小学校算数では、実生活を想定した問題や情報量の多い問題が出題された。問題場面を理解したり、問われていることが何なのかを理解したりする「読解力」を育てたい。
- 小学校理科では、身の回りの金属について、電気を流す物、磁石に引き付けられる物を選ぶ問題に課題が見られた。実験で習得した知識を整理し、まとめる活動を通して理解を深めたい。
- 中学校国語では、自分の考えが伝わる文書になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。文書を読む目的を明確にして必要な情報を捉えること、伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させたい。
- 中学校数学では、比較的良好にできていたが、説明したり証明したりする問題に課題が見られた。また、一次関数では、「 x の増加量に対する y の増加量」を求める問題に課題が見られた。
- 中学校理科では、今年度からコンピュータベースのテストが実施された。解く問題は全員が解く共通問題、生徒によって解く問題が違う非公開問題がある。全国平均よりも中間層の生徒が多い結果となった。

児童生徒に対する質問調査結果より

自尊意識・生活習慣等

- 小中一貫教育の目指す「コミュニケーション力」「チャレンジ力」「豊かな心」について
小学生、中学生ともに全国平均と同程度であるが、昨年度と比べると、全ての力が増加している。コミュニティ・スクールと小中一貫教育の一体的推進が結果となって表れてきている。さらに各学校の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業実践も充実してきている。問題解決型学習や体験学習をより充実させ、友達と一緒に共通の問題や課題を設定し、その解決に向けて粘り強く取り組む姿勢を育んでいきたい。
- 生活習慣
基本的な生活習慣が身についている小中学生の割合は全国平均と同程度である。基本的な生活習慣が身についている児童生徒は、身につけていない児童生徒よりも平均正答率が高い。
- 学習習慣
学校外での中学生の勉強時間は、全国平均よりやや長い。小学生は、平日の学校外での勉強時間が全国平均を下回っているが、土日は上回っている。
- 自己有用感
「自分にはいいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「先生は、よいところを認めてくれている」と回答した小中学生の割合は全国平均を上回る。昨年度よりも数値が向上し、各学校や家庭での意識した取り組みが自己有用感を高めたと考えられる。
- 学習に対する興味・関心や授業の理解度
昨年度同様、小学生中学生共に、学習に対する興味や理解度は、国語と理科は全国平均と同程度であるが、算数・数学は下回っている。また、ICTの授業での活用が全国平均を大きく下回っている。ICTを効果的に活用しながら、どの教科も「わかる」「楽しい」と思えるような授業改善を目指していきたい。